

漢文教材と地域探究と

～『孟子』「五十歩百歩」を参考に、地方から都市への人口流出について考察する～

新潟県立松代高等学校
国語科 小林 忠輝

勤務校（新潟県立松代高等学校）



勤務校（新潟県立松代高等学校）



勤務校（新潟県立松代高等学校）



勤務校（新潟県立松代高等学校）

普通科 地域探究コース
定員 2クラス80名

学 年	1 年	2 年	3 年	合 計
A 組	20	26	20	66
B 組	19	26	20	65
合 計	39	52	40	131

勤務校（新潟県立松代高等学校）

スクールミッション

【地域探究活動をととして、地域社会の担い手として貢献できる人材を育成する学校】

- ・教科や総合的な探究の時間、特別活動等、さまざまな場面をととして、他者と協働しながら主体的に問題を発見し解決に向けた行動ができる能力を育成する。
- ・地域探究活動をととして、持続可能な地域社会の担い手として貢献できる人材を育成する。

→「越後妻有地域連携松代高校コンソーシアム」の設立

勤務校（新潟県立松代高等学校）

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）
→昨年度から。今年度継続採用。

「地域社会の発展に貢献するデジタル人材の育成」

ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校に対し、環境整備の経費を支援する。

→支援対象 公立・私立の高等学校等約1000校

本校の地域探究活動について

各班で探究する地域課題を設定し活動する。

たとえば・・・

- ①十日町の織物の未来（若者の着物離れ）
- ②地域の伝統食を未来に残すには
- ③古民家再生と移住について
- ④美しい棚田の景観の保全
- ⑤持続可能な福祉・医療について考える
- ⑥松代・松之山の観光について などなど

本校の地域探究活動について

地域課題について探究するが、全ての地域課題が共通して抱える問題は・・・

「人口流出」「過疎化」「高齢化」
「担い手不足」「後継者不足」
「急速な人口減少」「少子化」など

勤務校（新潟県立松代高等学校）

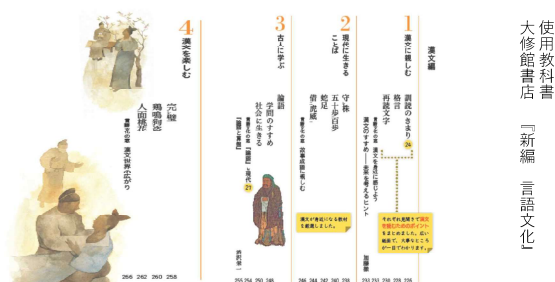
教育課程

教科	科目	標準 単位	1年	2年		3年				
				共通	選択	共通	選択			
					x	y	a	b	c	d e
国語	現代の国語	2	2							
	言語文化	2	2							
	国語論	4		2			3			
	古典探究	4								4
教養	国語	4		2		2				

勤務校（新潟県立松代高等学校）

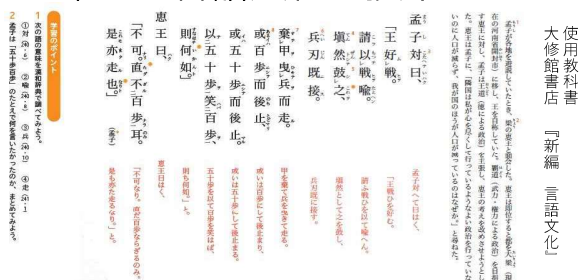
- ・ 地域探究活動
- ・ ICTの積極活用（DX推進）
- ・ 主体的・対話的で深い学び

1年生 言語文化の授業



使用教科書
大修館書店
『新編 言語文化』

1年生 言語文化の授業



使用教科書
大修館書店

『新編 言語文化』

1年生 言語文化の授業

「五十歩百歩」は「大差がない」という意味であることを確認し、教科書「学習のポイント」の問い

問 孟子は「五十歩百歩」のたとえで何を言いたかったのか、まとめてみよう。

答 恵王の政治は隣国の政治と大差はないのだということ。（指導書の模範解答）

1年生 言語文化の授業

導入文より

- 恵王の疑問 → 隣国よりいい政治を行っているにもかかわらず我が国のほうが人口が減っているのはなぜか。
- 孟子の回答 → 隣国の王の政治と恵王の政治には大差がない。

1年生 言語文化の授業

導入文より

- 恵王 → 霸道（武力・権力による政治）
戦争に勝つこと、強い権力を示すこと。
- 孟子 → 王道（徳による政治）
人々の衣食住が満たされた、安心な生活。
王による仁政（民衆に対して思いやり深い）。

1 年生 言語文化の授業

恵王が行う政治は人々の求めるものではない。
だから、人口流出が起きてしまう。



それは、現代の我々が住んでいる地域における
人口流出にも当てはまるのではないか？



例を見てみましょう。

1 年生 言語文化の授業

生徒への問い

- 問一 あなたの身の回りで、「都会と地方、男性と女性」などの間で「ギャップ（ずれ）」が起きている例を挙げてみよう。
- 問二 一で挙げたギャップに対して、あなたはどのように感じていますか。
- 問三 未来に向けて、地域の課題に対してどのような対策が考えられますか。

1 年生 言語文化の授業

地域探究活動

- ・タブレットを使用して、調べてみましょう。
- ・周囲の友人と相談しながら進めましょう。
- ・まとめたものをグループ内で発表します。発表する内容としてまとめましょう。

1 年生 言語文化の授業

- ・国や地方自治体の政策＝地方に残って子どもを産み育てるという生き方の強制。地方に根強く残る伝統的なジェンダーギャップ。
 - ・若者たちの認識＝地域による「圧」と感じる。自分の人生は自分が決める。地方に残ることに生き苦しさをを感じる。
- そんな地域を変えようと声を上げる・行動するにはリスクが伴う。
その結果、「静かに地方を去る」。

1 年生 言語文化の授業

○本時の振り返り

- 【思考】 気になるところを見つけるなど、頭を使っていたか？ (◎・○・△・×)
- 【判断】 理由をつけて考え、判断することができたか？ (◎・○・△・×)
- 【表現】 考えたことを言葉や文章にして伝えることができたか？ (◎・○・△・×)
- 総合 (◎・○・△・×)

本実践を終えて

良かった点

- ①漢文のみを学習する授業よりも、回答する姿勢や話し合いなどに主体性が見られた。
- ②地域の実情を理解するなど、事後の地域探究学習への導入になり得た。
- ③故事成語の理解が深まった。

本実践を終えて

改善すべき点

- ①振り返りを文章化することの練習を設ける。
- ②地域探究に関する活動であっても、最終的には漢文本文との関連性を意識させる。
- ③適切な問いを設定する。

本実践を終えて

今後に向けて

- ①地域に関することであっても生徒にとっては知らないことが多いため、「調べる」こと、もしくは教員が「知らせる」ことから始める必要性を感じた。助言の必要性。
- ②漢文自体の学習（書き下し文・返り点・現代語訳・・・）の充実も課題である。
- ③適切な評価についても再考すべき。